



北海道とか北の方が多かったんですが、旅先で感動するというのは、市長のおっしゃる通り、風景などの目で見ることに感動することはありますが、畢竟は人なんです。風間…人ですよ。

さとう…なんてことない、初めて会う人がすれ違うときに笑顔で「こんにちは」と言ってくれたことで、そのまちはすごく輝きますよね。

風間…私もそう思うんですよ。さとう…私は旅行が好きだと、いろいろところで言っているから、旅に関する原稿をちよつと書いてくれと言われて書くときには、必ずこのことを書くんですよ。風間…歴史を持っているこのま



気付かないのが白石市民なのかもしれないですね。

さとう…変に都会の臭みがなくて、白石は本当にバランスが良いまちですよ。

風間…ちょうど良い大きさのまちさとう…私もそう思います。人が生活していく上での環境バランスに恵まれているいいまちだと思います。

風間…新幹線駅から東側の方は近代的なビルや工場があつて、まちの中には歴史的な文化などの恵まれたものがせつかくあるのに、それを見直すなり享受して、いかに使うかをみんなで話し合いながら、一緒にやっていかなければだめだと思っんですよ。

すし、本で読んだ話ですが、日本人は「おむすび」を握って出してもらえばすぐ食べられますが、欧米の方は素手で握ることは受け入れられない。でも、今の日本人はいつの間にか、それをどこかに置いてきちゃったのかなと思っんです。相手を信じるのがなくなつてきちゃったかなと寂しく感じるときもあるんです。

このまちに降りて、お城までに行くたびに、おはよう、こんにちは、おばんです、と声が掛けられ、のんびりとした、派手やかでないまちだからこそできる良さがあると思っんです。これは仙台では無理なんです。

さとう…そうですね。地方都市であればこそかもしれませんね。これからは、そういうまちにつくっていきましようよと、具体的に啓発運動みたいなものが必要なのかもしれませんね。

風間…これからの課題ですね。さとう…これは、白石には限らず地方都市にはそういうにおいとか空気を残していきたいですね。風間…日本人だから、できることなのかなと思っんですよ。さとう…白石を離れて、例えば東京などの都会に行っている人が、帰つてきて、今まで会つたこともない知らない人が声を掛けてくれたとき、涙が出るくらいうれしいですよ。

■市民とともに進めるまちづくり

相手を信じて、ふれあえる心を持つているんだけれども、出し切つてないのかなと思っときもあるんですよ。

さとう…でも、以外と引つ込み思案というところは東北人にはあるじゃないですか。それは責められないところでもあるけれども、うまく引き出してあげられるようなことができないでしょうか。冒頭に言ったように、白石のまちを歩いて楽しいまちにしたいと市長が思っているのであれば、良い働きかけだと思っますよ。市民の人たちが、初めて白石を訪ねる人に道を尋ねられたとき、「こう歩いたほうがいいですよ」と言えるようになれたらいいですね。

風間…全員がそれこそ案内人だったらもつと面白いんですけどね。白石に行つたらみんな白石のことを知つていて、あそこ行つてごらんよ、ここ行つてごらんよって言えたら、面白いまちになると思っんですが。これから、一つずつでも良いから、こつこつと市民とともに進めていこうと思っますから、その中で新たなものをもう一度作り直して、古いものをもう一度見直しながら、そこに手を加えたことにより、もう一度光り出すこともあると思っます。

風間…うれしいと思っますね。やっぱりこのまちに生まれて良かったと思っますよ。さとう…ここに生まれて良かったと思えるまちであつて欲しいですね。白石に限らず地方都市とは、そうあつて欲しいですね。風間…それが本当の意味でのまちの特色ではないかなと思っときがありますね。



さとう…背景として、白石には歴史も文化もあるわけだから、そういう啓蒙運動やっていく上では、ゼロじゃないと思っます。風間…そこに、和紙やけしや温麺などの名産がいっぱいあるんですよ。



さとう…だから、風間市長としては、もつともつと市民にいろんなことを投げかけていけばいいんじゃないですか。それに市民の方々がどのように応えてくれるか。

風間…それは楽しみですよ。私だけが考えるより、みんなで考えていければいいと思っます。「気付き」をそれぞれができるようになればと思っます。たぶんこれから、いろいろな面で宗幸さんにご指導いただきたいと思っますので、今後ともよろしくお願ひします。

さとう…私の名刺は白石和紙ですし、はがきも遠藤さんの所の白石和紙です。宮城県の中では、古川はふるさとで仲間がいたりします

うにすればいいんじゃないでしょうか。風間…そうなんです。ほかのまちに行つたとき、声を掛けられたときは本当にうれしいものですよ。さとう…本当にうれしいですよ。風間…それを白石の市民みんなでやつていければと思っんです。さとう…そうですね。あとは、旅行なんかして、もう一度行きたいなと思っようなまちの条件はいろいろあるけど、人、それから水、それから風、空気だと思っますね。これらの三拍子が白石はそろつていますよ。4万の市民の皆さんは大事にしてほしいですよ。

風間…そうしたときに、白石はいっぱい変わりますよ。それを糧にしながら、産業も興して定住したくなるまちにしたいと思っます。少子化は避けて通れないと思っますが、それよりも光つている白石でいたいと思っんですよ。

■白石は素晴らしいまち

さとう…外から来る人を招き入れる観光自然がいっぱいあるじゃないですか。まちの中にもあるし、小原や鎌先の温泉はあるし、そして何よりも霊峰蔵王がありますよね。風間…もしかすると、その良さに

が、古川を除けば白石が一番縁が深くなつた所ですよ。風間…新しいものだけではない、昔の良さももう一度かみしめながら、それが一番の心の豊かさかもしれないですね。人を信じる、人を愛する、そしてまちを愛する気持ちだけはなくしたくないですね。さとう…特にこういう地方都市っていうのは、残しておいてほしいし、残していきたいと思っます。風間…東北はどこでも自然は本当にきれいですから、その中でも光るまちを市民と共につくつていきたいと思っます。本当に今日はありがとうございました。さとう…こちらこそ、ありがとうございました。

